

## 小学校部会 指導助言の記録

記録者 美郷町立田代小学校 徳丸 岳

指導助言者	内 容
<p>南九州大学 人間発達学部 宮内 孝 教授</p>	<p>「体づくり運動」の授業について</p> <p>○どの授業がよい授業と思いますか？</p> <p style="text-align: center;">①ポイント×・動きの高まり×      ②ポイント○・動きの高まり○ ③ポイント○・動きの高まり×      ④ポイント×・動きの高まり○</p> <p>本日の体づくり運動の授業は、この③を意図して指導が行われた。この後6年生で動きも高めるようにして、②の授業をめざそうと考えている。④の段階は、1～4年生の多様な動きをつくる運動(遊び)でめざすのではないだろうか。②は中学校以降でめざす授業ではないか。</p> <p>上記のどのタイプの授業を、どの学年でめざすのかを明確にし、系統性を踏まえた体づくり運動の授業実践が望まれる。</p> <p>○東先生の授業は、とても良かったと思う。待機、移動など無駄の少ないマネジメント、学習規律、ファイルや道具の置き方、グループごとの整理などがしっかりとしていて学習課題に取り組める時間が多かった。</p> <p>○体育に楽しさは必要なものではあるが、そのものが学習内容ではない。運動を教材として取り扱うことになるが、教師が主導ばかりでもいけない。今日はグループでの課題解決学習(動きを高める・運動のポイントを見つける)が含まれていて、大変良い授業であった。</p> <p>○今回の授業で参観3回目になるが、児童のワークシート内の振り返りの文字数が時間ごとに増えているし、動きのポイントにも触れている。また、自分の体についての記述もあった。「こう動いた時にこう動く」など、自分の体に注目しているから、児童が自分の動きを感じる事ができていたと思う。</p> <p>数値化も大事であるが、自分の体に常に注目させるためにも、自由記述が必要である。体育学習として、内容として、主体的・対話的で深い学びであった。</p> <p>○他の領域「器械運動・ボール運動」などは、技術面が明確であり、教える内容が分かりやすく、授業をしっかり計画していけば、やりやすい。しかし、「体づくり運動」は不明確なことも多く、ゴールイメージをもちにくい。だからこそ児童の実態を把握し、この動きをここまで高めたいというゴールをもっておくことが大切になる。そして、その根拠を教師がしっかりともっていれば良い。</p> <p>自由度があることが、体づくり運動の良さでもある一方で、逆を言えば、教師の力量が試される運動領域と言うこともできる。</p>

指導助言者	内 容
宮崎県教育庁 スポーツ振興課 村中田 博 指導主事	<p>「保健」の授業について</p> <p>○防犯ブザーを鳴らした導入、壁新聞やおたすけハウス等の資料の提示方法、効果的な ICT の活用、地元警察官からのビデオメッセージなど、児童の興味・関心や理解を深めさせるための手立てが多く見られた授業であった。学習資料を半分隠して考えさたり、ロールプレイングを行ったりすることで思考をさらに広げ、深めることができていた。ワークシートも工夫され、グループの活動も充実していた。</p> <p>○児童は妥当な解答にたどり着き、落ち着いたかに見えたが、さらに悩みながらも最適解を求めようと試行錯誤する姿があった。特に後方窓側の班は、発表の順番を待つグループ代表の児童に他の児童が「これがもっといい」と理由も含めて伝えるなど、さらに妥当なアイデア・付加価値を創造する場面が見られた。脳をフル回転させた深い学びが垣間見えた瞬間ではないか。</p> <p>○めあてとまとめを大切にしてほしい。例えば、めあてを「どうすればよいか」と設定すれば、まとめもそれに対応して「～すればよい」とするなど、めあてとまとめの整合性を踏まえた授業を構築していくことが大切である。</p> <p>○ふりかえりではアウトプットさせる時間を十分に確保してほしい。思考ツール等を用いて思考したことを他者に伝える力を養い、学習効果を高めてほしい。これまでの時代は「暗記したことを正しく再生できる力」を求められてきた。今後は「思考し、表現する力」が強く求められている。体育でも「〇〇運動を教える」から、「〇〇運動で学ばせる」というスタンスで、「育成すべき資質・能力の学ばせ方」や「本気で課題解決したくなる課題設定」「教えたいことと学びたいことの合致」等が大切になってくる。</p> <p>○文部科学省より4月に全学校に配布された「保健教育の手引」には、本時のあとに取り扱う「けがの手当」の実習の展開例（P39～）が掲載されている。また①保健教育の意義（P2, 3）、②カリキュラム・マネジメントや高校までの学習の系統性（P6, 7）、③指導方法例（P16～18）についてもぜひ確認してほしい。P14, 15には学習指導要領総則編の解説（P236, 237）の「心身の健康の保持増進に関する教育（現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容）」も紹介されている。カリキュラム・マネジメントの参考としてほしい。併せて「ギャンブル等依存症指導参考資料」も3月に出ている。WHOから精神疾患として認定された「ゲーム障害」も掲載されている。新たな課題へ対応できるよう参考にしてほしい。</p> <p>○文部科学省のHPには「新学習指導要領に関するQ&amp;A」、「アクティブ・ラーニングの実践研究発表資料」、国立教育政策研究所のHPには「学習評価の在り方ハンドブック」、教職員支援機構のHPには「アクティブ・ラーニング授業実践（200事例）」がアップされている。宮崎県小体連、宮崎市小体連のHPには、研究の成果物が年度ごとにまとめられ、アップされている。併せて3名の体育専科の取組もアップされている。ぜひチェックして、授業を充実させるために活用してほしい。</p>